

R2

## アクションプラン全体計画（平成28～令和2年度）

推進項目	82 公共施設の適正配置・多用途化の推進				重要度	A			
番号・取組事業名	82001	フレイル予防事業の充実		作成日	R2.4.1		更新日	R3.3.31	
担当部署	061400	保健福祉部 地域包括支援課		責任者	高橋 裕之		担当者	地域ケア推進担当	
取組年度	H28	～	R2						
効果	その他改善								
最終目標	<p>介護保険法の改正により、介護予防・日常生活支援総合事業が位置づけられたため、フレイル予防事業の拡充を図る。フレイル予防事業の拠点となる市直営の介護予防センター「ほのぼのプラザますお」及び介護予防事業を委託している「いきいきプラザ」や市内9ヶ所の「地域包括支援センター」と連携し、フレイル予防事業の強化及び地域展開を図るとともに、最終目標として、要介護認定者数の抑制、介護保険給付費の削減を目指す。</p> <p>※フレイル予防：フレイル状態とは、健康な状態と要介護状態の中間の虚弱の状態。多くの方はフレイル状態を経て要介護状態に移行するとされており、フレイル状態を早期発見、早期解決することで要介護状態への移行を減らすことができるとされている。</p>								
年度	区分	取組内容・目標							
平成28年度	計画どおり	関係機関と連携し、市民ぐるみで「フレイル予防プロジェクト2025」を進めている。2ヶ所の介護予防センターが拠点となって、養成した人材の派遣やフレイル予防プログラムの提供等を通して、地域における市民主体のフレイル予防の取組みを支援した。							
平成29年度	計画どおり	フレイル予防事業の拠点である介護予防センターの機能強化のため、地域団体との信頼関係が構築されている柏市社会福祉協議会へ委託する事務を完了した。フレイル予防事業の利用者は計画値に達しなかったが、次年度へ向け、地域団体へのフレイル予防活動の支援を行う体制を作ることができた。							
平成30年度	計画どおり	介護予防センター主催講座の参加者数は昨年度並みであったが、介護予防センター講座受講者による自主グループの立ち上げなど、市民主体のフレイル予防活動が一層推進されつつあることを認識した。							
令和元年度	計画どおり	介護予防センターの出張講座で新規参加者獲得、またフレイルチェックのリピート率が上昇、さらに今年度のロコモフィットかしわ参加者による自主グループが8グループ立ち上がった。							
令和2年度	計画どおり	新しい生活様式の下で、感染予防対策を取りながら、フレイルチェックや出前による介護予防講座を実施した。また、講座以外の手段として、介護予防紙面講座のリーフレットの配布や、簡単にできる体操等の動画を配信した。							
成果指標	指標名	フレイル予防事業の利用者					単位	人	
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	最終値	
	当初計画値		5,500	6,500	7,000	7,500	8,000	8,000	
	変更計画値	4,500					10,000	10,000	
実績値		5,829	5,531	6,661	6,502	3,339	3,339		
効果額	歳入増加	当初計画額						0	
		変更計画額						0	
		実績額						0	
	歳出削減	当初計画額						0	
		変更計画額						0	
		実績額						0	
	計	当初計画額	0	0	0	0	0	0	
		変更計画額	0	0	0	0	0	0	
		実績額	0	0	0	0	0	0	
見込まれる その他効果 (金額以外)	当初計画額		ほのぼのプラザますお及びいきいきプラザにおける新規フレイル予防事業の展開、大学連携事業展開	ほのぼのプラザますお、及びいきいきプラザを拠点にフレイル予防事業を展開し、地域への事業展開の実施	ほのぼのプラザますお、及びいきいきプラザを拠点にフレイル予防事業を展開し、地域への事業展開の実施	ほのぼのプラザますお、及びいきいきプラザを拠点にフレイル予防事業を展開し、地域への事業展開の実施	ほのぼのプラザますお、及びいきいきプラザを拠点にフレイル予防事業を展開し、地域への事業展開の実施		
	変更計画額								
	実績額								
	合計								

R2

## アクションプラン(令和2年度)

推進項目	82 公共施設の適正配置・多用途化の推進				重要度	A			
番号・取組事業名	82001	フレイル予防事業の充実	作成日	R2.4.1	更新日	R3.3.31			
担当部署	061400	保健福祉部 地域包括支援課	責任者	高橋 裕之	担当者	地域ケア推進担当			
	区分	取組内容・目標							
令和2年度	計画どおり	新しい生活様式の下で、感染予防対策を取りながら、フレイルチェックや出前による介護予防講座を実施した。また、講座以外の手段として、介護予防紙面講座のリーフレットの配布や、簡単にできる体操等の動画を配信した。							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	かしわフレイル予防ポイント制度の登録推進のための働きかけを実施			○	○	○	○		
2	2ヶ所の介護予防センターにおけるフレイル予防事業等の実施			○	○	○	○		
3	介護予防センターによる大圏域ごとの出張フレイル予防講座の実施			○	○	○	○		
4	フレイルチェックのレポート者数向上のため、地域サロン等への働きかけを実施			○	○	○	○		
5	各種フレイル予防事業参加者の自主グループ化の働きかけを実施			○	○	○	○		
6									
7									
8									
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	遅れている	コメント	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座等すべての事業を6月末まで中止した。事業再開後も、収容人数の半数の定員での実施になっている。また、今年度から実施しているフレイル予防ポイント制度も、発行窓口の一時閉鎖により、カード発行は1,598枚となっている。講座以外の手段として、フレイル予防関係資料を配布した。					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	フレイル予防事業の利用者		計画値	単位	人	実績値	単位	人
					10,000			3,339	
	達成状況【成果】	一部達成	コメント	新しい生活様式の下で、感染予防対策を取りながら、フレイルチェックや介護予防講座を実施するとともに、講座以外の手段として、自宅で行える体操やストレッチなどの介護予防紙面講座のリーフレット配布や、簡単にできる体操等の動画を配信するなどの新たな取り組みを試みた。また、かしわフレイル予防ポイント制度については、広報、ホームページ掲載や大型商業施設、サロンに出向いての説明や、期日前投票の機会等を利用した周知を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数や活動内容に限りが出てしまい、フレイルチェック等のフレイル予防講座の参加や、フレイル予防ポイント付与対象の活動等、フレイル予防活動に取り組んだ市民は3,339人だった。					
	進捗状況【活動】	計画どおり							
計画変更(次年度以後)	取組内容		コメント						
	計画値								
評価	評価者	鬼沢 徹雄	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	C	コメント 指示事項	コロナ禍ということもあり、目標達成値であるフレイル予防事業の利用者1万人を大きく下回ってしまったのは、やむを得ないところではあるが、コロナ禍で行動制限があるからこそ重要になってくる事業であると思える。手法等の見直しも含めて、更なる取り組みの強化に努められたい。					
	方向性	取組み強化							